

活動分野	中央・九十九里部会		
タイトル	大多喜県民の森を訪ねる		
実施日時	平成 29 年 12 月 17 日 (日)		
実施場所	大多喜町		
受講者	名	F I C 会員他スタッフ	7 名

活動の内容

大多喜県民の森は過去に FIC でも何度か訪れ野外講座の実施等を行ってきましたが、その当時から大分時間も経過したので改めて観察会のフィールド等への活用検討のために訪れました。

以前は県民の森に隣接して薬草園があり、そこを訪れるのも興味深かったのですが、2 年半前に閉鎖されて現在は立ち入り不可となっています。

管理事務所前の広場の駐車場からキャンプ場入り口経由、砂防ダム脇の木道を進みます。砂防ダムの機能等について Tkさんから解説がありその役割について納得！、そこから森の遊歩道に、この辺はシダの観察に適したところで 10 種以上のシダを確認、コモチシダの無性芽等も手近に観察出来ました。また、ハナミョウガやアオキの赤い実が鮮やかです。

大多喜県民の森はスギ・ヒノキの人工林が殆どですが、南総には珍しくシラカシが多く、さらに人工林化の後に実生で生えたと思われる比較的珍しい木本類も観察出来ます。

午後は大多喜町が本場であるタケにちなんだ竹資料館、竹笹園の見学、さらに県立中央博物館の大多喜城分館の見学を行い今日の部会を終了しました。

さらに有志は、Trさんの案内で竹細工に取り組んでおられる方（県庁の林業技術職員 OB）の作業場を見学、貴重なお話を伺うことが出来ました。なかでも、「イノシシはモウソウチクよりもマダケのタケノコが大好き、あと 20 年もすると房総半島にマダケ林はなくなってしまい、竹細工が出来なくなってしまうのではないかな？」と云うお話は衝撃的でした。



マツザカシダ



ツルアリドオシの液果、2花合体の跡が見える



シカの侵入はまだのようだ、アオキの実が鮮やか



中国技術者による清風亭（材はマダケとモウソウチク）